

報告：第 14 回研究大会が開催されました

■大会開催報告

2015 年 6 月 27 日（土），同志社大学今出川キャンパス良心館にて，「情報メディアを活用した顧客志向マーケティング」を基調テーマとして，第 14 回研究大会を開催しました。参加者数は，正会員 28 名，非会員 12 名（但し，講演者・パネリスト・展示説明員等の 5 名を含む），学生会員 5 名，非会員学生 2 名の合計 49 名でした。

開会にあたり，西垣通会長から研究大会の基調テーマやプログラムについてご紹介をいただきました。

午前中の基調講演「IoT 時代のメディアの進化」では菊池隆裕氏（日経 BP イノベーション ICT 研究所 主任研究員）にご登壇いただき，いままでインターネットにつながっていなかったものがインターネットにつながりはじめる Internet of Things (IoT) 時代について，最新動向と歴史を解説していただきました。質疑応答では，端末センサーのメンテナンスの問題や，IP アドレス数の問題，個人情報の問題などが議論になりました。

午後はまず，シンポジウム「情報メディアを活用した顧客志向マーケティング」で，コーディネーターの鈴木秀頭氏（ノースアジア大学），パネリストの植村八潮氏（専修大学），布川博士氏（岩手県立大学），菊池尚人氏（慶應義塾大学），佐藤翔氏（同志社大学）にご登壇いただきました。IoT 時代の消費者行動データ解析によってマーケティングはどのように変化してゆくのか，さらにより広くこれからの社会をどのようにかたちづくってゆけるのか，鈴木氏からおおきな枠組みを提示していただき，そのうえで各パネリストよりそれぞれより分野をしばった現状分析と問題提起をしていただきました。おおまかに，布川氏からは電子書籍について，菊池氏からは情報通信と著作権法と法制について，植村氏からはインターネットならびに IoT に対する批判的観点について，佐藤氏からはデジタル化以後のデータ解析について，ご発表いただきました。休憩を挟んだ討議では，鈴木氏から提示された IoT 時代の競争戦略という題目に沿って登壇者たちのあいだで議論が交わされました。質疑応答では，IoT のインフラ化がはらむ政治経済的な問題など，マーケティングという枠組みも越えて議論が盛り上がりました。

続いて，ポスター発表者による推薦発表とライトニングトークが行われました。推薦発表はポスター発表に応募された発表のうち企画委員により選出された 3 件についての各発表者による口頭発表で，大蔵綾子氏（筑波大学大学院）「議会公文書館における歴史公文書等の利用：外国における公開・非公開の判断基準」，山西史子氏（筑波大学大学院図書館メディア研究科博士後期課程）「日本文学・日本語学における学会発表と雑誌の関連性」，竹之内禎氏（東海大学）西田洋平氏（東京薬科大学）山田裕紀氏（東海大学）小林崇氏（テクノツール）「スローネットとユニバーサルデザイン —生命を活性化するユニバーサル情

報社会の構築に向けて—」の3件について、各代表者からご発表いただきました。

ポスター発表者によるライトニングトークでは、柴田大輔氏（筑波大学大学院）芳鐘冬樹氏（筑波大学）天野晃氏（理化学研究所）「学術文献における引用分類の観点整理と考察」、吉川次郎氏（筑波大学大学院）佐藤翔氏（同志社大学）高久雅生氏（筑波大学）逸村裕氏（筑波大学）「日本語版および英語版 Wikipedia における DOI リンクの重複分析」、和田匡路氏（科学技術振興機構・筑波大学大学院図書館情報メディア研究科）遠藤裕子氏（科学技術振興機構）池内有為氏（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科）「研究データ共有に関わるステークホルダーの動向と課題」、井規子氏（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科）中山伸一氏（筑波大学図書館情報メディア系）「ラーニングコモンズにおける開かれたディスカッションスペースの利用状況の分析」、佐藤翔氏（同志社大学）「子の有無と図書館利用・情報行動の関係」、萩原千代恵氏（鶴見大学大学院）角田裕之氏（鶴見大学）「大学図書館における Twitter 利用とインプット・アウトプットの相関分析」、天野晃氏（理化学研究所・筑波大学）「クラスタリング指標における新しい評価基準のアイデア」、金丸早希氏（鶴見大学大学院）角田裕之氏（鶴見大学）「「図書館の自由」に関する宣言から見る資料に関しての神奈川県公立図書館における公開情報の比較研究」、角田裕之氏（鶴見大学）孫媛氏（国立情報学研究所）西澤正己氏（国立情報学研究所）刘筱敏氏（中国科学院文献情报中心）「科学研究費の研究領域における高被引用論文の学術機関リポジトリの登録調査の研究」の9件について、各代表者にご発表いただきました。

最後はポスター展示エリアにて、ポスター発表について発表者と参加者とのディスカッションが行われました。最優秀ポスター発表として、正会員による投票の結果、竹之内禎氏、西田洋平氏、山田裕紀氏、小林崇氏の「スローネットとユニバーサルデザイン —生命を活性化するユニバーサル情報社会の構築に向けて—」が選ばれました。

■プログラム概要

9:30 受付開始

10:00 基調講演

11:30 総会, 昼食

13:30 シンポジウム 「情報メディアを活用した顧客志向マーケティング」

コーディネーター:

鈴木秀顕 氏 (ノースアジア大学)

パネリスト:

植村八潮 氏 (専修大学)

布川博士 氏 (岩手県立大学)

菊池尚人 氏 (慶應義塾大学)

佐藤翔 氏 (同志社大学)

15:45 推薦発表+ライトニングトーク (ポスター発表者による概要紹介)

17:10 展示閲覧・ポスターディスカッション

■ポスター発表

1. <推薦発表> 議会公文書館における歴史公文書等の利用：外国における公開・非公開の判断基準
大蔵綾子（筑波大学大学院）
2. <推薦発表> 日本文学・日本語学における学会発表と雑誌の関連性
山西史子（筑波大学大学院図書館メディア研究科博士後期課程）
3. <推薦発表> スローネットとユニバーサルデザイン -生命を活性化するユニバーサル情報社会の構築に向けて-
竹之内禎（東海大学） 西田洋平（東京薬科大学） 山田裕紀（東海大学）
小林崇（テクノツール）
4. 学術文献における引用分類の観点整理と考察
柴田大輔（筑波大学大学院） 芳鐘冬樹（筑波大学） 天野晃（理化学研究所）
5. 日本語版および英語版 Wikipedia における DOI リンクの重複分析
吉川次郎（筑波大学大学院） 佐藤翔（同志社大学） 高久雅生（筑波大学）
逸村裕（筑波大学）
6. 研究データ共有に関わるステークホルダーの動向と課題
和田匡路（科学技術振興機構・筑波大学大学院図書館情報メディア研究科）
遠藤裕子（科学技術振興機構）
池内有為（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科）
7. ラーニングコモンズにおける開かれたディスカッションスペースの利用状況の分析
井規子（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科）
中山伸一（筑波大学図書館情報メディア系）
8. 子の有無と図書館利用・情報行動の関係
佐藤翔（同志社大学）
9. 大学図書館における Twitter 利用とインプット・アウトプットの相関分析

萩原千代恵（鶴見大学大学院） 角田裕之（鶴見大学）

10. クラスタリング指標における新しい評価基準のアイデア

天野晃（理化学研究所・筑波大学）

11. 「図書館の自由」に関する宣言から見る資料に関しての神奈川県
の公立図書館における公開情報の比較研究

金丸早希（鶴見大学大学院） 角田裕之（鶴見大学）

12. 科学研究費の研究領域における高被引用論文の学術機関リポジトリの登録調査
の研究

角田裕之（鶴見大学） 孫媛（国立情報学研究所）

西澤正己（国立情報学研究所） 刘筱敏（中国科学院文献情報中心）

*** 発表資料について**

パネルディスカッション，ポスター発表について，発表者の予稿を掲載した「情報メディア学会第14回研究大会発表資料」を当日参加者に配付しました。残部がありますので，ご希望の方は事務局にお申し込みください。代金1,000円（他に送料を加算）は，発表資料送付時に同封する郵便振込票にてお払い込みください。

最優秀ポスター発表受賞者インタビュー

「スローネットとユニバーサルデザイン

—生命を活性化するユニバーサル情報社会の構築に向けて—

竹之内禎（東海大学）

西田洋平（東京薬科大学）

山田裕紀（東海大学）

小林崇（テクノツール）

1. 最優秀ポスター発表受賞おめでとうございます。受賞について一言お願いします。

- 竹之内氏「このような賞を頂きまして大変光栄です。発表内容に関心を寄せて下さった皆様方に感謝いたします。」
- 西田氏「大変光栄です。時間的には非常に厳しかったですが、最後は竹之内先生が奮闘してくださいました。まだまだこれからのテーマではありますが、スローでも進展させていければと思います。」

- 山田氏「このたびは私たちのポスター発表を最優秀賞に選んでいただき、多くの方々に感謝申し上げます。共同研究者の竹之内先生から本研究について初めてご説明を受けたとき、非常に興味深いテーマであると直感しました。ささやかですが、ご協力できて、大変光栄に思います。変化の激しい昨今の ICT 社会において、私たちのポスター発表を通じて、「スローネット」を少しでも知っていただけて幸いです。」
 - 小林氏「このたびの受賞、スローネットに関しまして少なからず関心をいただきました結果と受け止め、今後の論理拡充に向けて寄与できましたらと考えます。ありがとうございます。」
2. どういった経緯でこのメンバーで今回の研究を行うことになったのでしょうか？経緯を教えてください。
- 竹之内氏「私がそれまで別々に取り組んできた「基礎情報学理論の応用」と「情報ユニバーサルデザイン」という研究テーマを「スローネット」というキーワードで繋げられるのではないかと直感したのが発端です。基礎情報学の理論的なサポートを西田氏に相談し、情報ユニバーサルデザインの実践面に詳しい山田氏と小林氏にも声をかけ、共同研究がはじまりました。」
3. ポスター発表の研究概要について教えてください。
- 竹之内氏「人間の創造的な時間を増やし、社会全体を自由度の高い方向へと導く IT をスローIT、それによって実現されるつながりをスローネットと呼びます（参考：西垣通『スローネットーIT 社会の新たなかたち』春秋社、2010）。本研究では、スローネットの具体像を考えるための一つの切り口として、情報ユニバーサルデザインに注目しました。Web アクセシビリティ、カラーユニバーサルデザイン、マルチメディア DAISY 図書、ユニバーサル・アクセス（UA）携帯といった取り組みを検討し、ユニバーサルデザインの考え方がスローネットに資する場面と、逆にスローネットとは必ずしも両立しない場面とを考察しました。」
4. デザイン面などで工夫した点を教えてください。
- 竹之内氏「情報ユニバーサルデザインというテーマでもありましたので、なるべくシンプルなデザインで文字数を抑え気味にしながらも、味気ないものにならないようにと考えました。「スローネット」や「ユニバーサル・アクセス携帯」などのやや特殊な用語については、予稿、口頭発表スライド、ポスターの各場面で繰り返し説明し、理解を助けるよう努めました。」
5. ポスター制作にあたっての苦労話やエピソードなどありましたら、教えてください。
- 竹之内氏「4人そろそろ機会がなかなかありませんでしたので、2人ずつ、3人ずつで通勤の行き帰りに待ち合わせたり、食事をしたりしながら議論を重ねました。山

田と小林は全盲なので、竹之内、西田が資料を読み上げたり、電子テキスト化したりすることもありました。納得できない点を曖昧にしないという姿勢だったため、議論を重ねる中から当初想定していなかった論点がいくつも浮かび上がってきました。スケジュールはタイトでしたが、対面とネットを併用して丁寧に議論のかみ合わせを図るというプロセスは、ある意味でスローネット的でもあったと思います。」

6. ポスター発表時の会場の人からの反応はいかがでしたでしょうか？

- 竹之内氏「スローネットとユニバーサルデザインとを組み合わせる着眼を評価して下さった方がいました。また、障害者に配慮した出版物の制作に関わった方や、Webアクセシビリティの教育・研究を手がけている方からもポスターについてコメントを頂くことができました。」

7. ポスター発表の論文発表のご予定は？

- 竹之内氏「今回は、情報ユニバーサルデザインの観点を生かしたスローネット実現の可能性と課題について、いくつかの特徴的な論点を整理した段階です。より深く検討しなければならない論点が残されていますので、今後、議論を深め、学会誌『情報メディア研究』への論文投稿を目指して研究を進めていきたいと思います。」

■ おわりに

この大会の企画と準備は、以下の会員をメンバーとする大会企画委員会が中心となって行われました。これらの方々の多大のご尽力に感謝致します。

[大会企画委員会]

委員長	岡部 晋典	同志社大学 学習支援・教育開発センター
委員	天野 晃	理化学研究所バイオリソースセンター
委員	石川 大介	科学技術・学術政策研究所
委員	石川 敬史	十文字学園女子大学
委員	植松 利晃	科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター
委員	佐藤 翔	同志社大学 社会学部
委員	角田 裕之	鶴見大学 文学部
委員	中林 幸子	四国大学 文学部
委員	原島 大輔	東京大学大学院 総合文化研究科